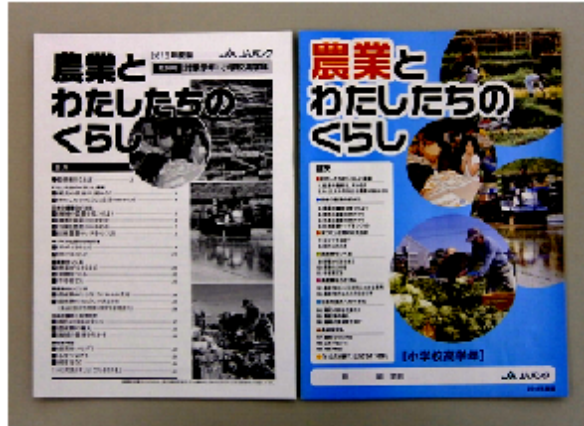




農協だより

教材本の贈呈

JAバンクが全国の小学校に贈呈している補助教材「農業とわたしたちの暮らし」を今年も海田・熊野・坂・広島市教育委員会を通じて管内18校の児童へ贈呈しました。子供たちに食と農業の繋がりを学んでもらう「JAバンク食農教育応援事業」の一環で、平成20年から実施しています。社会科や家庭科など農業に関連した授業の補助教材として有効に使われています。



バケツ稲づくり

次世代を担う子供たちに、バケツで稲を育てるという一連の作業を通じて農や食に関心を持ってもらおうとJAグループ主催で取り組みを行っています。種もみ、肥料、バケツ稲づくりマニュアルを無料で配布しました。昨年に続き横浜小学校、小屋浦小学校、さらに今年から海田小学校でも取り組みられます。



稲作講習会の開催日

場 所 : JA安芸各支店
時 間 : 午前の部 10時～・午後の部 1時30分～
講習内容 : 田植後の管理と本田防除について～

日時	6月10日(月)		6月11日(火)		6月12日(水)		6月13日(木)		6月14日(金)	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
会場	畑賀2階	中須賀2階	東海田2階	阿戸2階	上瀬野3階	中野2階	瀬野2階	熊野2階	追分	初神老人集会所

育苗センターでは・・・

水稻苗出荷

4月1日に第1回目の播種を行い、4月12日～13日と出荷をいたしました。育苗センターの苗は種子消毒を60度の温湯で行い農薬を省いております。4月13日には、2回目の播種を行い、24、25日に出荷をいたしました。6月上旬まで順次生産を行います。現在の水稻苗予約状況は、昨年より多く18,432箱です。育苗センター職員一同、良品質苗をみなさまにお届けするよう頑張っております。



春野菜苗出荷

4月15～18日に12月より育苗した春野菜苗を各支店に出荷いたしました。

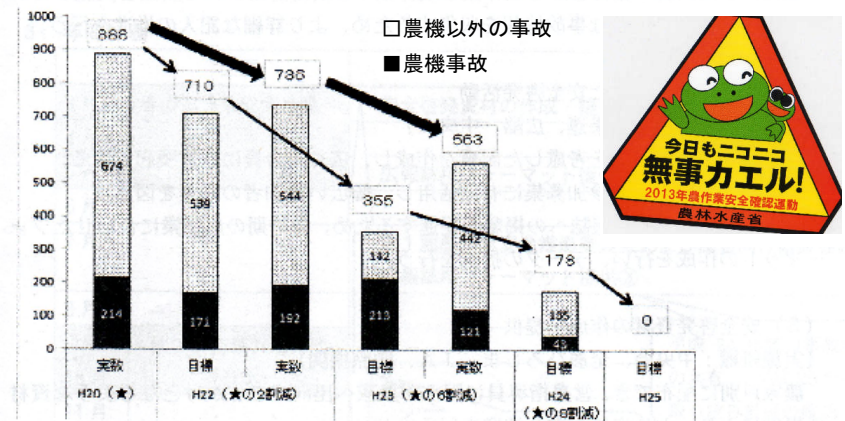
長ナス	7,126 鉢	中長ナス	2,022 鉢
ピーマン	3,484 鉢	キュウリ	7,508 鉢
ミニトマト	1,683 鉢	トマト	8,880 鉢
シントウ	480 鉢	スイカ	1,280 鉢
アスパラ	650 本		



春の農作業安全月間実施中

「JAグループ広島作業事故撲滅3ヵ年運動」を平成22年度から実施してきましたが、3ヵ年の取り組みの結果事故件数は減少してきました。平成25年度には農作業事故の撲滅を目指して、引き続き組合員の営農と生活を守る観点から取り組みを実施いたします。草刈り機、耕運機、田植機、トラクター等の取り扱いには充分気を付けて作業していただきますようお願いいたします。

【JAグループ広島農作業事故撲滅3ヵ年運動目標】



5月営農メモ



水 稲

◎本田の準備

代かきは田面を均平にし、苗立ちの良い硬さにするとともに除草剤の効果を高めることができます。このとき練り過ぎますとガス障害のため初期成育に悪影響を及ぼします。一般土壌では田植え4~5日前に代かきをすると土の固さが安定し良い状態になります。

◎基 肥 基肥は地力で足りないチッソ・リン酸・カリを補給し、必要茎数を確保するために施用します。稲作ごよみの施肥例を参考に、昨年の水田ごとの生育状況を考慮し、施肥設計します。昨年休耕した水田や野菜あとで作る水田では基肥を少なめか無しにします。基肥一発型のJB575Mは、コシヒカリなどの早生品種に、JB555Mは、ヒノヒカリなどの中生品種に使用でき、追肥・肥穂が不要で省力ができます。穏やかに効き、葉色は薄めに生育します。(天候によっては穂肥が必要な場合があります。)

◎田 植 え 大株植えや密植は過繁茂となり、収量・品質低下や倒伏の原因になるばかりか消えてゆくむだな茎も多くなり、思った程収量・品質は上がりません。1株当たり3~5本とし、植付け間隔は条間30cm×株間16.5~18cmを目安にしてください。ただし、株の張りにくい田ではやや狭めに植付けてください。補植は3株以上欠株の場合のみとし、1~2株程度の欠株は、その周囲の株張りが良くなるのでほとんど影響しません。

◎箱 施 用 剤 圃場や品種の適したものを選び、なるべく当日の施用は避け登録の範囲内で早めに散布した方が効果が高まります。除草剤と間違えないように散布前にもう一度確認してください。

◎田植え後の水管理 苗が活着するまでは、水を溜めてかけ流しを避け、積極的に水温を上げます。活着後は、ときおり水を落として土中に空気を入れ、根を元気にします。夜間や日中でも曇って寒い日や風の強い日は、やや深水とします。

◎活着期~分けつ期 活着して葉色が出てきたら、3~4日おきに水を落とし、田がわくのを防ぎます(間断かんがい)。ただし、漏水田で田干しのやりすぎは雑草が発生するので注意してください。

◎追 肥 分けつを促進するとともに、穂肥まで下限葉色を維持します。コシヒカリ、ココノエモチは、田植え後7日、ヒノヒカリ、あきろまんは、田植え後10~14日頃中間追肥を施用します。

◎除 草 剤 法改正により、初期剤の登録が代かき後~田植前7日前または田植直後~ピエ1葉期ただし、田植後30日までに変更になりました。必ず守ってください。実際には代かき後7日間もおくと田が硬くなり過ぎ、浮苗や浅植えの原因になりますので、田植後に雑草の発芽が確認出来てからの散布がお勧めです。その際、薬液が稲に付着しても問題はありません。その後の水管理は従来どおりです。

※散布後7日間は落水、かけ流しをしないで下さい。

果 樹

イチジク

イチジクは、4月中旬より芽が大きくなり伸び出します。新梢の基部1~3節の芽は発育を停止することが多く果実がつかないことが多いです。この時、肥料が多かったり剪定が強すぎて樹勢が強くなりすぎると新梢の基部1~3節以上に果実がつかないことがあります。(樹勢が弱いと基部より付きます。)果実は、下位節から順次肥大、成熟していきます。このように、新梢のすべてが結果枝になりそれぞれ発育段階の違う生育をするのは珍しい果樹になります。芽かきの時期。早いほど養分の消費は少ないですが、樹全体の結果枝が不揃いになりやすいので樹勢に応じて1~3回に分けて行い枝の揃いを良くします。1回目は、展葉2~3枚時新梢長5~6cmのころ、2回目は、展葉5~6枚時新梢長10~15cmのころ、3回目は、展葉8~9枚時新梢長30~40cmのころに行います。最後の芽かき後の新梢は40cm間隔ぐらいになるように配置します。病害対策 サツマイモネコブセンチュウが寄生していると新梢の伸びが悪く、葉、果実が小さく樹勢が弱くなります。地表面近くの細かい根に粒の様なものが見えたら被害を受けている可能性があります。5~6月にネマトリンエース粒剤を2kg/aほど樹冠下処理をします。また、そうか病と言って果実にかすれた傷の付く病があります。販売する場合は商品価値を落とすので5~6月着果初めから肥大期に2~3回くらい防除します。トップジンM水和剤を散布します。

野 菜

苗について 5月に入ると4月に定植した苗が生育し、株が大きくなってきます。連休明け頃に晩霜の恐れがなければトンネルを撤去し、支柱を立てて樹がぐらつかない様にしましょう。わき芽も大きくなってきますので不要な芽は早めに取り除きましょう。

追 肥 定植後20日位より肥料が切れ始めますので追肥を開始します。以降、葉色を見ながら15~20日おきに追肥します。施肥位置は追肥毎に場所を変えて施しましょう。土が乾いていれば追肥後に灌水もしておきましょう。

摘 果 果菜類の場合、樹の生長と同時に果実の肥大を行うため、樹が小さい時から実を着けると生育が悪く収量が減少しますので、生育が不良な場合は摘果を行いましょう。特にナスやピーマン、キュウリでは注意しましょう。トマトでは一果房に一段目では3~4玉、以降は4~5玉着果させ、多く着果した場合や、果実に傷などの障害があるものは早めに摘果しておきましょう。

病 害 虫 4月下旬よりアブラムシやウリハムシなどの害虫が発生していますので、発生初期に防除を行いましょう。ナスでは今月下旬頃よりハダニが発生してきます。殺ダニ剤は総使用回数が少ない薬剤が多いので散布の際は注意して下さい。ウリ類やエンドウ類ではうどん粉病が発病しやすくなります。

今月種まきできるもの

ウリ類、エダマメ、オクラ、スイートコーン、ゴボウなどが播種できます。